

岩津ねぎだより

令和4年8月10日
岩津ねぎ産地協議会
生産支援チーム

<今後の作業管理のポイント>

- ① 病害虫が発生しています。防除を徹底しましょう
- ② 局所豪雨が懸念されます。排水対策を徹底しましょう。
- ③ 高温期の追肥は根焼けや病害発生を誘発します。追肥は慌てずに9月以降の土寄せから実施しましょう。

1 生育初中期のほ場巡回を行いました(8月4日)

8月4日に生産支援チームでほ場巡回を行いました。

7月中下旬の降雨による湿害(根痛み)による葉の黄化が見られました。また、雑草が繁茂するほ場も一部見られました。

病害虫は、黒斑病、べと病、疫病などが確認されたものの、進行は落ち着いていました。今後の降雨や涼しくなると拡大が懸念されますので防除を徹底しましょう。

また、軟腐病など土壌伝染性の病害の発生も見られましたので下記2を参考に対策してください。

無理に株元の土を動かすと根を傷めて、病害を助長する可能性があるため、無理に株元まで中耕しないようにしましょう。



湿害が発生したほ場

2 注意したい土壌伝染性の病害

① 軟腐病

葉が黄化し、株元が腐り簡単に引き抜け、腐敗臭がします。気温が30~35℃で、多湿条件で発生しやすいため、降雨後の発生に注意しましょう。

<発生株を見つけた場合>

- ・被害株は前後の株も併せて抜き取り、ほ場の外に持ち出す。

<発生していない場合>

- ・転ばぬ先の杖で、発生前に軟腐病の予防をしましょう。

※ 防除薬剤は裏面のとおり



軟腐病発生状況

② 白絹病

下葉が萎れ枯れている株が連なっており、掘ってみると、白くて比較的太い菌糸がはびこっている。地際部に赤茶色の小さな菌核を密生する。適温は 32℃で、多湿条件下で発生しやすくなります。



白絹病発生株

<発生株を見つけた場合>

- ・被害がひどい株は抜き取り、ほ場の外に持ち出す。

<病害防除薬剤一覧>

(R4.8 JPP-NET による)

	商品名	RACコード*	適用病害虫名称	希釈倍数・使用量	使用方法、散布液量	使用時期	本剤の使用回数
予防	モンガリット粒剤	3	白絹病	4~6kg/10a	株元散布	土寄せ時(但し、収穫14日前まで)	3回以内(*)
発生時	モンカットフロアブル40	7		2000倍	株元散布、100~300L/10a	土寄せ時(但し、収穫30日前まで)	3回以内
予防	オリゼメート粒剤	P2	軟腐病	6kg/10a	株元散布	土寄せ時(但し、収穫30日前まで)	2回以内
発生時	バリダシン液剤5	U18	白絹病	500倍	株元散布、100~300L/10a	収穫前日まで	2回以内
			軟腐病		100~300L/10a		

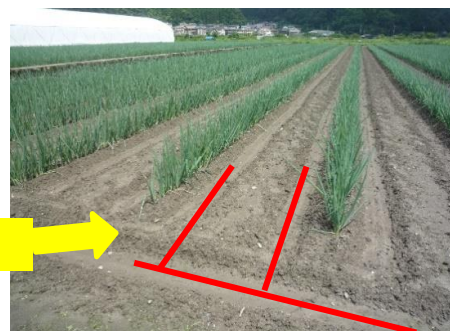
*シメコナゾールを含む農薬「テーク水和剤」「モンガリット粒剤」の総使用回数：3回以内

3 台風シーズン前に再確認！排水対策の重要性

ほ場周辺の額縁溝が排水口につながっていないほ場では、降雨後、ほ場内に水が溜まっています。(右写真上)

排水対策が十分でないと、湿害による根腐れや、軟腐病、白絹病やネダニなどの病害虫の発生につながります。

今後も局地的な降雨が懸念されますので、右写真下のよう
に、ほ場の周りの額縁溝や条間に浅い溝を設置して、ほ場排水に努めましょう。



溝を繋げて排水しやすいように！

4 追肥は慌てずに、9月以降の土寄せ時から実施

気温が高い時に窒素肥料（s604等）を大量に施用すると、根焼けを起こすだけでなく、病害の発生を助長してします。追肥は気温が下がり始める9月に入ってから土寄せ時に行いましょう。

<問合せ窓口> 和田山営農生活センター：672-4800 山東営農生活センター：670-7744
朝来営農生活センター：670-4341 朝来農業改良普及センター：672-6886